

平成25年度  
事業計画書

公益財団法人 日本ユースリーダー協会

## I. 3年計画基本方針(平成24～26年度)

### Mission statement “明日の国際社会を牽引する若きリーダー＝ユースリーダーの育成支援”

当協会は新たに「公益財団法人日本ユースリーダー協会」として船出した。これまで青少年の育成に取り組んできた43年の歴史を継承しつつ、新しい時代を創るリーダーを育成支援するというミッションのもと事業の再構成を行う。

平成24年～26年度の3年間においては、特に「アジア」をフィールドとするリーダー育成支援に重点を置く。我が国は言うまでもなくアジア地域の一員であり、他のアジア諸国との連帯を深める事が真の国際化への第一歩である。その為には、まず若い世代が自国を飛び出し、同じアジアのリーダーと親交を深め、自ら実践してアジア地域の歴史文化を学ぶことが大切である。

当協会では、これまでアジア地域での活動経験とネットワークを活かし、アジアを舞台に若者自らがリーダーとして活動する体験機会を提供していく。

- ◎ 3年計画における方針「アジアをフィールドに、次代のユースリーダーを育成する」
- 3年後の目標
  - ①100名の若者が、アジアでのリーダー体験を経て、新たな行動をおこす。
  - ②500名の若者応援サポーターが、我々の活動に参画する。

#### 1. 目標達成のための重点戦略

- (1) 日本の若者を対象とする、アジアでのリーダー研修プログラムの開発と普及  
「内向き志向」と言われる日本の若者に対して、海外特に同じアジア地域においてリーダーシップを体験するプログラムを開発し、当協会の中核事業として確立する。

その最初の取り組みとして、ASEAN地域での研修プログラム「飛び出せ若者プロジェクト」を立ち上げ事業化する。

- (2) 他のアジア地域のユースリーダーの来日研修

日本の若者のみならず、他のアジア地域のユースリーダー育成支援を継続する。これまでのJICA事業の実績を活かし、AJAFA(JICA招へいの同窓会組織)や中華全国青年連合会などアジア地域の提携機関と協力し独自の研修受け入れ体制を強化していく。また、日本に留学しているアジア地域の留学生への支援にも取り組む。

- (3) ユースリーダーに対する支援体制の確立

「アジア地域を舞台に自らリーダーシップをとって社会的なアクションをとってみたい！」若者のこうした思いを実現させるため、企画段階からの相談および活動に対する公募助成を確立することで支援体制を整備する。また、支援する側の「若者応援サポーター」に対して、若者への支援の仕方を習得するボランティアトレーニングプログラムを開発し支援活動に積極的に参画してもらう体制を構築する。

- (4) アジアのユースリーダーの交流促進と拠点づくり。

アジアのユースリーダーの相互交流の促進及び優れた活動を行うユースリーダーの顕彰を行う。また、アジア地域の活動を支援するための拠点づくりに重点を置き、その開拓と体制づくりに取り組む。

## 2. 組織体制の整備

- (1) 「担当理事制」導入による執行体制の強化
- (2) インターンシップを活用した若手スタッフの増強、特に研修担当スタッフの強化
- (3) アジア地域におけるボランティア協力者の開拓と拠点づくり。
- (4) 法人会員拡大のための体制強化。企業が自ずと参画したくなる魅力あるプログラムづくりと役員・協力者によるフォローアップ体制の確立。
- (5) 個人会員拡大のための体制強化。自分が若者を応援していることを具体的に実感できる広報、さらには実際に若者を応援する活動に参加できる機会づくりの徹底。
- (6) 若者の未来のための財団であることを自覚し、業務や活動において笑顔と情熱、コミュニケーションを大切にする事務局の「場」づくり。

## 3. 財政基盤強化

- (1) 公益目的事業の確立  
収支相償の原則に基づき、参加者拡大による事業収入の増加と安定化を図る。
- (2) 会員の拡大  
活動基盤である法人・個人会員を拡大すべく、徹底したフォローアップと事業活動の充実を図る。
- (3) 個人・法人からの寄付金  
公益財団移行に伴う税制優遇措置を活用し、ユースリーダーの活動を具体的に支援する寄付獲得戦略を実施する。
- (4) 助成金補助金及び委託事業申請予定先
  - ① 日中緑化交流基金(中国植林プロジェクト)
  - ② JICA国際協力機構
  - ③ その他、アジア研修プログラムにかかる新規申請先の開拓(大学教育機関等)

## Ⅱ. 平成25年度事業計画

### 公益目的事業

「明日の国際社会を牽引する若き人材すなわちユースリーダーを育成・支援し、若者が夢と誇りをもって挑戦できる社会づくりに取り組む事を目的とする事業」

3か年計画の2期目となる平成25年度は、定款第4条における事業項目に基づき下記3つの活動を主軸において取り組むこととする。

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 1. ユースリーダーの育成活動  | ・・定款4条(1)    |
| 2. ユースリーダーへの支援活動 | ・・定款4条(2)    |
| 3. ネットワーク・社会啓発活動 | ・・定款4条(3)(4) |

#### 1. ユースリーダーの育成活動

##### (1) アジア研修プログラム

###### ① 「グローバル・エデュケーション・ツアー(GET)」

当協会の中核事業として、日本の高校生・大学生をアジア地域で研修する「グローバル・エデュケーション・ツアー(GET)」を実施する。25年度はインドネシア・中国・ベトナムの3地域に計40名を派遣し、7～10日にわたって現地小学校での授業体験や各種プロジェクト活動を実施する。また、新たに1カ月程度の中期研修プログラムについて受入れ先の開拓を行う。

###### ② 日中青年植林プロジェクト(日中緑化交流基金助成事業)

中華全国青年連合会との共催により、中国の安徽省(安慶市)及び内モンゴル自治区(オールドス市、バヤンノール市)の3カ所、新規として新疆ウイグル自治区1カ所の計4カ所における植林緑化事業を行う。そのうち、内モンゴル自治区・オールドス市においては、上記①「グローバル・エデュケーション・ツアー」の一環として、日本の高校生・大学生が現地の植林活動に参加し、中国の若者とともにボランティア活動に取り組む。

##### (2) 来日研修の受入れ

###### ① アジア地域からの来日研修受入

これまでJICA事業の実績を活かし、アジア地域におけるユースリーダーの来日研修プログラムを新たに開発する。25年度は、上記(1)アジア研修プログラムの実施国からユースリーダーを招へい、プログラムに参加した日本学生が次は受入れボランティアの役割を担う「相互交流」の事業モデル構築を検討する。

###### ② アジア地域の在日留学生に対するインターン研修プログラムの開発

新規プログラムとして、アジア地域の在日留学生を対象とするインターン研修プログラムを開発する。日本留学においては、学校以外の社会体験の場が少ない事が指摘されており、当協会独自の研修プログラムを開発する。

### (3) ユースリーダー研修

#### ① 異業種交流研修会・若手社会人研修会

中堅リーダーを対象とする「異業種交流研修会」を年3回(第16～18回目)実施する。また、若手社会人を対象とする研修会を新たに発足させる。

#### ② 「アジアの会」(大阪)

アジアで活躍する各種リーダーを招いた定例会及び語学勉強会。

#### ③ 「親子学習プログラム」におけるリーダー研修

新江ノ島水族館などの協力のもと、世代間交流を通じたリーダー研修を実施する。

## 2. ユースリーダーへの支援活動

### (1) アジアユースチャレンジ支援

日本を含むアジア地域において社会的活動に取り組もうとする若者を広く公募し、助言・助成等の支援を行う。25年度は2名(団体)程度の選考を検討する。

### (2) アジアユースチャレンジ支援サイトの作成・運営

日本を飛び出して他のアジア地域を訪問したい国内の若者と、その受入れに協力してくれるアジア地域のキーパーソンとをマッチングする支援サイトの設立・運営を目指す。

### (3) 若者応援サポーター・トレーニングプログラムの開発

若者支援に取り組みたいシニア層に対し、若者を支援するにあたってのスキルを習得するボランティアプログラムを開発、実施する。

## 3. ネットワーク・社会啓発活動

### (1) 「第5回若者力大賞」

同世代に夢と感動を与えている20代、30代の若者と、その指導者を顕彰する表彰制度。自薦他薦の公募の中から、外部有識者を中心とする審査委員会によって選考する。

### (2) AJAFA-21との交流及びECM東京開催にむけた準備委員会

ASEAN-JAPAN Friendship Association for 21th(AJAF21)はJICA「21世紀のための友情計画(現・青年研修事業)」で来日したASEAN各国の同窓会組織であり、当協会は日本側代表組織として同組織との交流に取り組んでいる。同事業開始から30周年を迎える2014年度においては、AJAF21の幹部会議であるExecutive Council Meeting(ECM)を日本で開催することが決定しており、当協会はホスト団体として関係団体とともにその準備に取り組んでいく。

①AJAF21 TV conference(年3～4回の定期開催)

②Regional Leaders Forum(RLF) マレーシア開催(2013年11月を予定)

③Executive Council Meeting(ECM) インドネシア開催(2014年2月を予定)

④ECM2015東京開催 準備委員会(2015年2月開催に向けて)

**(3) ユースリーダーによる交流**

- ①「アジアトリップ」の開催
- ②若者力大賞過去受賞者等ユースリーダー間の交流会の開催

**(4) 社会啓発のための広報活動**

- ①広報誌およびメールマガジンの発行
- ②ホームページの運営

**4. その他、組織運営に係る活動**

**(1) 会議の運営**

- ①評議員会及び理事会の開催
- ②その他、事業運営に係る会議の開催

**(2) 会員の相互交流に関する活動**

- ①サポーター(個人会員)に関する相互交流
- ②法人会員に関する相互交流(会長サロン)
- ③新規会員募集に関する会員拡大活動

**(3) 事務局の運営**

- ①本部(東京都港区赤坂1-1-14 NOF溜池ビル5階)
- ②アジア地域における支援拠点づくり

**(4) その他、組織運営に係る活動**

平成25年度 収支予算  
(自;平成25年4月1日 至;平成26年3月31日)

単位:千円

科 目	金 額			備 考
	25年度予算(当年度)	24年度予算(前年度)	増 減	
<b>I. 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
① 基本財産利息収入	25	25		
② 会費収入				
正会員会費(法人会員)	32,640	28,800	3,840	
個人会員	500	500	0	
③ 事業収入	8,335	6,020	2,315	
(1)ユースリーダー育成事業	{ 7,675			
(2)ユースリーダー支援事業	{ 50			
(3)ネットワーク・社会啓発事業	{ 610			
④ 寄付金収入				
一般寄付金	100	1,200	-1,100	
指定寄付金	0	0	0	
⑤ 補助金等収入				
「日中緑化交流基金」受託	51,100	42,800	8,300	1プロジェクトの増
⑥ 雑収入				
受取利息・雑収入	200	200	0	
事業活動収入計	92,900	79,545	13,355	
<b>2. 事業活動支出</b>				
① 事業費支出	69,280	56,378	12,902	
(1)ユースリーダー育成事業	{ 64,279			
(2)ユースリーダー支援事業	{ 1,241			
(3)ネットワーク・社会啓発事業	{ 3,760			
② 管理費支出	23,220	22,767	453	
内人件費	{ 12,000	{ 11,960	40	役職員4名分
賃借料	{ 3,600	{ 3,564	36	事務局賃借料等
事務経費	{ 7,620	{ 7,243	377	会議運営費、その他含む
事業活動支出計	92,500	79,145	13,355	
事業活動収支差額	400	400	0	

<b>II. 投資活動収支の部</b>				
<b>1. 投資活動収入</b>	0	0	0	
投資活動収入計	<b>0</b>	0	0	
<b>2. 投資活動支出</b>				
退職給付引当資産取得支出	<b>325</b>	325	0	
投資活動支出計	<b>325</b>	325	0	
投資活動収支差額	<b>-325</b>	-325	0	
<b>III. 財務活動収支の部</b>				
<b>1. 財務活動収入</b>				
短期借入金収入	5,000	5,000	0	
財務活動収入計	<b>5,000</b>	5,000	0	
<b>2. 財務活動支出</b>				
短期借入金返済支出	5,000	5,000	0	
財務活動支出計	<b>5,000</b>	5,000	0	
財務活動収支差額	<b>0</b>	0	0	
<b>IV. 予備費支出</b>	<b>75</b>	75	0	
当期収支差額	<b>0</b>	0	0	
前期繰越収支差額	<b>22,314</b>	22,314		
次期繰越収支差額	<b>22,314</b>	22,314		

(注1) 収支予算書は「新公益法人会計基準」に則り作成している。

(注2) 借入金限度額 20,000,000円 (前年同額)

(注3) 債務負担額 0円